

成就訓練資料：主日集会

成全訓練教材：主日聚會

Training Materials: Lord's Day Meeting

スキャンして電子データ入手
(Google Document)



目次

1. [メッセージ：I. 主を記念する（前半）](#)
2. [メッセージ：I. 主を記念する（後半）](#)
3. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - A. 1-2](#)
4. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - A. 3（前半）](#)
5. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - A. 3（後半）](#)
6. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - B. 1](#)
7. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - B. 2（前半）](#)
8. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - B. 2（後半）](#)
9. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - B. 3](#)
10. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - C](#)
11. [メッセージ：II. 主を記念することの実行 - D](#)
12. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - A](#)
13. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - B.1](#)
14. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - B.2](#)
15. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - C. 1](#)
16. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - C. 2](#)
17. [メッセージ：III. 御父を礼拝する - D](#)
18. [メッセージ：IV. パンをさく人](#)
19. [メッセージ：V. パンをさく時](#)
20. [メッセージ：VI. パンをさく場所](#)
21. [メッセージ：VII. パンをさいた後 - A](#)
22. [メッセージ：VII. パンをさいた後 - B](#)
23. [メッセージ：VII. パンをさいた後 - C](#)

内容について

この資料は日本福音書房『健康な言葉の模範 第四系列-新しい道の実行』第17課を23回に分けたものです。この書物は他の書物からパンさきに関するメッセージを抜粋したものです。アウトライン(サブタイトル)は分かりやすさのために一部変更しています。

英語引用元には見出しがない場合、日本語と中国語ご参照し適切に見出しをつけています。また分量の配分上見出しに位置を多少前後させることがあります（例えば、III-B）。

中国語は臺灣福音書房《健康話語的規範 第四系列-新路實行》の内容を下記のサイトより引用しています。

- 健康話語的規範 第四系列-新路實行：<http://mo.myphotos.cc/books/TWGBR/2308-4/>
- 事奉的基本功课：<http://mo.myphotos.cc/books/TWGBR/3069/index.htm>
- 生命課程卷二：<http://mo.myphotos.cc/books/TWGBR/2162/2.htm>

英語には同じ書物がなく、下記の抜粋元から集めていますので、内容は若干異なる部分もございます。

- I: “Basic Lessons on Service” #2 ,Living Stream Ministry
- II～III: “Basic Lessons on Service” #5 ,Living Stream Ministry
- IV～VII: “Life Lessons” #17, Living Stream Ministry

日本語と中国語の表現が古いもしくはわかりにくい場合は適宜修正しております。

訂正及び修正

『健康な言葉の模範 第四系列-新しい道の実行』P151の第1段落の引用の記載は間違い。本資料で訂正済み。

誤：(奉仕についての基本的学課、第2課)

正：(奉仕についての基本的学課、第3課)

I 主を記念する

A 主の食卓の焦点——主を中心とする（ルカ22:19-20、1コリント11:23-25）

1 全ての詩歌、讃美、感謝、証し、言葉は、主ご自身を中心とすべきです

…多くのクリスチャンは、主の食卓を持つのは彼の死を記念するためであると考えています。これは間違いです。わたしたちは彼の死を記念しようとしているのではなく、主ご自身を記念しようとしているのです。主はわたしたちに、彼の死を記念するのではなく、彼を記念してこれを行なうようにと言われたのです。わたしたちはパーソン、主ご自身を記念します。これが主の食卓の集会の中心点です。

I 記念主

A 主桌子的中心點—以主為中心（路加22:19~20，林前11:23~25）

1 所有的詩歌、贊美、感謝、見證和話語，都該以主自己為中心

…許多基督徒認為，主的桌子是為要記念祂的死，這是錯誤的。我們不是記念死，而是記念主自己。主告訴我們要如此行，為的是記念祂，而不是記念祂的死。我們記念主自己的人位。這是擘餅聚會的中心點。

I To Remember the Lord

A The Focus of the Lord's Table - Concentrated on the Lord Himself (Luke 22:19-20, 1 Cor. 11:23-25)

1 All hymns, praises, thanks, testimonies, and words should be concentrated on the Lord Himself

…Many Christians think that to have the Lord's table is to remember His death. This is wrong. We are not going to remember the death, but we are going to remember the Lord Himself. The Lord told us to do this in remembrance of Him, not of His death. We remember the Person, the Lord Himself. This is the central point of the Lord's table meeting. (Basic Lessons for the service Chapter 2, II-A-4)

ルカによる福音書 | 路加福音 | Luke 22:19-20

●それから、イエスはパンを取って感謝をささげ、それをさいて彼らに与え、言われた、「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念にこれを行ないなさい」。彼らが食事をした後、杯も同じようにして言われた、「この杯は、あなたがたのために注ぎ出される、わたしの血によって立てられた新しい契約である。

●又拿起餅來，祝謝了，就擘開，遞給他們，說，這是我的身體，為你們捨的，你們要如此行，為的是記念我。飯後，也照樣拿起杯來，說，這杯是用我血所立的新約，這血是為你們流出來的。

●And He took a loaf and gave thanks, and He broke it and gave it to them, saying, This is My body which is being given for you; do this in remembrance of Me. And similarly the cup after they had dined, saying, This cup is the new covenant established in My blood, which is being poured out for you.

コリント人への第1の手紙 | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:23-25

●わたしは主から受けたことを、あなたがたにも伝えました。すなわち、主イエスは裏切られたその夜、パンを取り、感謝をささげてから、それをさいて言われました、「これは、あなたがたのために与えるわたしの体である。これを行ない、わたしの記念としなさい」。彼らがそれを食べた後、杯も同じようにして、言われました、「この杯は、わたしの血によって立てられた新しい契約である。それを飲むたびに、これを行ない、わたしの記念としなさい」。

●我從主領受又交付你們的，就是主耶穌被出賣的那一夜，拿起餅來，祝謝了，就擘開，說，這是我的身體，為你們捨的，你們要如此行，為的是記念我。飯後，也照樣拿起杯來，說，這杯是用我的血所立的新約，你們每逢喝的時候，要如此行，為的是記念我。

●For I received from the Lord that which also I delivered to you, that the Lord Jesus in the night in which He was betrayed took bread, And having given thanks, He broke it and said, This is My body, which is given for you; this do unto the remembrance of Me. Similarly also the cup after they had dined, saying, This cup is the new covenant established in My blood; this do, as often as you drink it, unto the remembrance of Me.

I 主を記念する

A 主の食卓の焦点——主を中心とする

2 全てのそらすものを避けるべきです

主の食卓の集会は主を記念することですから、人々を主から、パースンからそらすどのような詩歌、証し、メッセージも不適切です。主の食卓の集会である人は戦いについての詩歌を選ぶかもしれません。ある人は主の食卓の中で、自分がどのようにして苦難から救われたのかを証しするかもしれません。それは他の集会では良いかもしれませんが、主の食卓の集会にはふさわしくありません。ある兄弟は、朝ごとの食物で享受した良い御言をもって、主の食卓に来るかもしれません。彼はその良い御言をもって集会に臨み、悔い改めや救いについて良い教えを与えるかもしれません。しかし、これは間違いです。そのような教えは主の食卓の集会のためではなく、福音を宣べ伝える集会のためです。主の食卓の集会は主のパースンに焦点づけられているので、すべての詩歌、すべての賛美、すべての語りかけは主ご自身に焦点づけられているべきです。主の食卓の焦点からそらすものは避けるべきです。(奉仕についての基本的学課、第2課)

I 記念主

A 主桌子的中心點—以主為中心

2 該避免所有的打岔

因為擘餅聚會是記念主，所以任何詩歌、見證和信息，若將人從主這個人位岔開，都是不合適的。在擘餅聚會中，可能有人選了爭戰的詩歌；或是聚會到了一半，可能有人起來作見證，說他如何從他的苦難中得拯救。這些在別種聚會可能是好的，但在擘餅聚會卻不合適。一位弟兄可能帶著他早上晨興所享受的一句美好的經節來到擘餅聚會，並就著那節經節，給人一段關於悔改和得救很好的教導。這是錯誤的。這樣的教導不是為著擘餅聚會，而是為著傳福音的聚會。擘餅聚會是以主的人位為中心，所以，所有的詩歌、讚美和話語，都該以主自己為中心。所有使人從主桌子的中心點離開的打岔都該避免。（事奉的基本功課，一八至一九頁。）

I To Remember the Lord

A The Focus of the Lord's Table - Concentrated on the Lord Himself

2 All distractions should be avoided

The Lord's table meeting is to remember the Lord, so any hymns, testimonies, or messages that distract people from the Lord, the Person, are not appropriate. In the Lord's table meeting, someone may call a hymn on fighting the battle, or in the midst of the Lord's table, someone may give a testimony of how he was rescued from his suffering. That might be good in another kind of meeting, but it is not fitting at the Lord's table meeting. A brother may come to the Lord's table with a good verse which he enjoyed in his time of morning revival. He might come with that good verse to give people a good teaching concerning repentance and salvation. This is wrong. Such a teaching is not for the Lord's table meeting but for a gospel-preaching meeting. The Lord's table meeting is concentrated on the Person of the Lord, so all the hymns, all the praises, and all the speaking should be concentrated on the Lord Himself. All distractions from the focus of the Lord's table should be avoided. (Basic Lessons for the service Chapter 2, II-A-4)

II 主を記念することの実行

A パンを食べることによって

1 主をわたしたちの命の供給として享受する（ヨハネ6:35a）

ヨハネによる福音書第6章35節前半で主は、彼は命のパンであると言われました。ですからパンを食べることは、主をわたしたちの命の供給として享受することです。パンをさくことは何の享受も暗示しませんが、パンを食べることは確かに享受を暗示します。

2 わたしたちが主によって生きることを証しする（ヨハネ6:57b）

わたしたちがパンを食べるのは、わたしたちが主によって生きることを証しすることでもあります。ヨハネによる福音書第6章57節後半で主は、「わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる」と言われました。パンを食べることによって、わたしたちは主を享受していることを表明し、これがわたしたちの生きる道であることを証します。これが真に主を記念することです。

II 記念主的實行

A 藉著吃餅

1 享受主作我們生命的供應（約翰福音6:35a）

在約翰六章三十五節上半，主告訴我們祂是生命的糧，所以吃餅乃是享受主作我們生命的供應。擘餅不含示任何享受，但吃餅當然含示享受。

2 見證我們憑主活著（約翰福音6:57b）

我們吃餅也見證我們憑主活著。主在約翰六章五十七節下半說，”吃我的人，也要因我活著。”藉著吃餅，我們表明我們享受主，並見證這是我們生活的方式。這乃是真實的記念主。

II To remember the Lord

A By Eating the Bread

1 To Enjoy the Lord as Our Life Supply (John 6:35a)

In John 6:35a the Lord told us that He is the bread of life, so to eat the bread is to enjoy the Lord as our life supply. Breaking the bread does not imply any enjoyment, but eating the bread surely does.

2 To Testify That We Live by the Lord (John 6:57b)

We also eat the bread to testify that we live by the Lord. In John 6:57b the Lord said, "He who eats Me, he also shall live because of Me." By eating the bread we indicate that we enjoy the Lord and we testify that this is our way to live. This is the real remembrance of the Lord.

ヨハネ | 約翰福音 | John 6:35a

- イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく…
- 耶穌對他們說，我就是生命的糧，到我這裡來的，必永遠不餓…
- Jesus said to them, I am the bread of life; he who comes to Me shall by no means hunger…

ヨハネ | 約翰福音 | John 6:57b

- わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる。
- 那吃我的人，也要因我活著。
- ...he who eats Me, he also shall live because of Me.

II 主を記念することの実行

A パンを食べることによって

3 キリストの奥義的なからだの中で交わりを持つ【前半】（1コリント10:16後半-17）

主を記念することについての次の重要な点は、わたしたちはパンを食べて、キリストの奥義的なからだの中で交わりを享受するということです。パンをさくことは、おもに主の物質の体がわたしたちのために十字架で裂かれたことを暗示します。パンを食べることは、パンを取り入れることであり、おもにキリストの奥義的なからだの中で交わりを暗示します（1コリント10:16後半-17）。食卓の上の同じパン、同じパンのかたまりは、キリストの物質の体とキリストの奥義的なからだを表徴しています。主の物質の体は、わたしたちを贖うために十字架で裂かれました。主の奥義的なからだ、キリストのからだは、わたしたちの交わりのためにあります。主の物質の体に関して、わたしたちはパンをさき、主の奥義的なからだに関して、わたしたちはパンを食べます。共に食べるのは交流、交わりを意味します。同じパンの一部はあなたの中に入り、一部はわたしの中に入り、一部はわたしたち一人一人の中に入ります。これは、からだの交わりにあるからだの一です。

II 記念主的實行

A 藉著吃餅

3 在基督奧秘的身體裡有交通【前半】（林前10:16下-17）

關於我們記念主另一個重要的點乃是，我們吃餅是為著享受基督奧秘身體裡的交通。擘餅，主要含示主物質的身體在十字架上為我們裂開；而吃餅，就是把餅接受進來，主要含示基督奧秘身體裡的交通（林前十16下-17）。桌上同一個餅，表征基督物質的身體和基督奧秘的身體。主物質的身體在十字架上為我們裂開，是為著我們的救贖；主奧秘的身體，就是基督的身體，是為著我們的交通。就著主物質的身體，我們擘餅；就著主奧秘的身體，我們吃餅。一起吃的意思是共享、交通。同樣的餅，一部分進到你裡面，一部分進到我裡面，一部分進到我們每一個人裡面。這是身體交通中之身體的一。

II To remember the Lord

A By Eating the Bread

3 To Have Fellowship in Christ's Mystical Body [Part 1/2] (1 Cor. 10:16b-17)

The next crucial point concerning our remembrance of the Lord is our eating the bread to enjoy the fellowship in Christ's mystical Body. The breaking of the bread mainly implies the Lord's physical body broken for us on the cross. Eating the bread, which is to take in the bread, mainly implies the fellowship in the mystical Body of Christ (1 Cor. 10:16b-17). The same bread, the same loaf on the table, signifies the physical body of Christ and the mystical Body of Christ. The Lord's physical body was broken on the cross for our redemption, and the Lord's mystical Body, the Body of Christ, is for our fellowship. Regarding the Lord's physical body, we break the bread, and regarding His mystical Body, we eat the bread. Eating together means communion, fellowship. A part of the same bread gets into you, a part gets into me, and a part gets into each one of us. This is the oneness in the Body in the fellowship of the Body.

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 10:16b-17

- わたしたちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？一つパンであるからには、わたしたちは数が多くても一つからだなのです。それは、わたしたちがみなこの一つパンにあずかるからです。
- 我們所擘開的餅，豈不是基督身體的交通麼？因著只有一個餅，我們雖多，還是一個身體，因我們都分受這一個餅。
- The cup of blessing which we bless, is it not the fellowship of the blood of Christ? The bread which we break, is it not the fellowship of the body of Christ? Seeing that there is one bread, we who are many are one Body; for we all partake of the one bread.

♪詩歌(奥義的なからだ)：185-4(E222-4)

II 主を記念することの実行

A パンを食べることによって

3 キリストの奥義的なからだの中で交わりを持つ【後半】（ヨハネ12:24）

まず、食卓の上のパンは、十字架上でわたしたちのために与えてくださった主イエスの物質の体を表徴します。これは、わたしたちがさくパンです。次に、パンはまた主イエスの奥義的なからだを表徴し、それはすべての救われた信者たちから成ります。主イエスはこの地上におられた時、一粒の麦でした（ヨハネ12:24）。しかし今日、彼はもはや単なる一粒の麦ではありません。彼はご自身を含む多くの麦粒からなるパンです。ですから、パンを食べるとは、わたしたちがすべての聖徒たちから成る、キリストの奥義的なからだに預かっていること、すなわち、古代から今日までのすべての聖徒たちと宇宙的に交わっていることを暗示します。わたしたちは、主の食卓で主を記念することが、彼の贖い、彼の体、彼の新約エコノミー全体を暗示することを見る必要があります。

II 記念主的實行

A 藉著吃餅

3 在基督奧秘的身體裡有交通【後半】（約翰福音12:24）

首先，桌上的餅表征主耶穌在十字架上為我們所舍的物質身體，這就是我們所擘的餅。第二，這餅也表征主那包括所有得救信徒的奧秘身體。當主耶穌在這地上時，祂是一粒麥子（約十二24）；但今天祂不再是一粒單個的麥粒，而是那包含許多麥粒（包括祂自己）的餅。因此，吃餅含示我們有分於基督奧秘的身體，這身體包含所有的聖徒；也就是說，我們是與從古至今宇宙中所有的聖徒交通。我們需要看見，在主的桌子前記念主，含示祂的救贖、祂的身體、和祂全部的新約經綸。

II The practice of remembering the Lord

A By Eating the Bread

3 To Have Fellowship in Christ's Mystical Body [Part 2/2] (John 12:24)

We need to spend time on this point, especially for the sake of the new ones and young ones among us. First, the bread on the table signifies the Lord Jesus' physical body He gave for us on the cross. This is the bread which we break. Second, the bread also signifies the Lord's mystical Body, which is composed of all the saved believers. When the Lord Jesus was on this earth, He was a grain of wheat (John 12:24). But today He is no longer merely a single grain of wheat. He is the bread composed of the many grains, including Himself. Thus, to eat the bread implies that we are participating in the mystical Body of Christ, comprising all the saints, that is, we are fellowshiping with all the saints universally from ancient times until today. We need to see that the remembrance of the Lord at His table implies His redemption, His Body, and His entire New Testament economy.

ヨハネ | 約翰福音 | John 12:24

- まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが、死んだなら、多くの実を結ぶ。
- 我實實在在的告訴你們，一粒麥子不落在地裡死了，仍舊是一粒；若是死了，就結出許多子粒來。
- Truly, truly, I say to you, Unless the grain of wheat falls into the ground and dies, it abides alone; but if it dies, it bears much fruit.

♪詩歌(一粒の麦)：107-3([E8107](#)), 94-3(E116-3 no chorus), 152-22(E187-22), 154(E203), 170-3(E212-3), 185([E222](#)), 188-5([E8188-5](#)), 日補21(無中文/E1087), 補22(無中文/E1088), 日補23(無中文/E1089).

II 主を記念することの実行

B 杯を飲むことによって

わたしたちはまた、杯を飲むことによって主を記念します(1コリント11:25)。

1 新しい契約の贖いを覚える

杯を飲むとは、新契約の贖いを覚えることです。この点については、マタイによる福音書第26章27節から28節を読むと良いでしょう。「また杯を取り、感謝をささげて、それを彼らに与えて言われた、『みな、それから飲みなさい。これは、多くの人に罪の赦しを得させるために、今、注ぎ出されているわたしの契約の血である』。』」

II 記念主的實行

B 藉著喝杯

我們也藉著喝杯來記念主(林前十一 25)。

1 復習新約的救贖

我們喝杯乃是復習新約的救贖。關於這一點，我們最好讀馬太二十六章二十七至二十八節：「又拿起杯來，祝謝了，遞給他們，說，你們都喝這個，因為這是我立約的血，為多人流出來，使罪得赦。」

II To remember the Lord

B By Drinking the Cup

We also remember the Lord by drinking the cup (1 Cor. 11:25).

1 To Review the Redemption of the New Covenant

Our drinking the cup is to review the redemption of the new covenant. For this point it would be good to read Matthew 26:27-28: "And He took a cup and gave thanks, and He gave it to them, saying, Drink of it, all of you, for this is My blood of the covenant, which is being poured out for many for the forgiveness of sins."

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:25

●彼らがそれを食べた後、杯も同じようにして、言われました、「この杯は、わたしの血によって立てられた新しい契約である。それを飲むたびに、これを行ない、わたしの記念としなさい」。

●飯後、也照樣拿起杯來，說，這杯是用我的血所立的新約，你們每逢喝的時候，要如此行，為的是記念我。

●Similarly also the cup after they had dined, saying, This cup is the new covenant established in My blood; this do, as often as you drink it, unto the remembrance of Me.

マタイ | 馬太福音 | Matthew 26:27-28

●また杯を取り、感謝をささげて、それを彼らに与えて言われた、「みな、それから飲みなさい。これは、多くの人に罪の赦しを得させるために、注ぎ出されるわたしの契約の血である。

●又拿起杯來，祝謝了，遞給他們，說，你們都喝這個，因為這是我立約的血，為多人流出來，使罪得赦。

●And He took a cup and gave thanks, and He gave it to them, saying, Drink of it, all of you, For this is My blood of the covenant, which is being poured out for many for forgiveness of sins.

♪ 詩歌(契約の血)：173-2(E214-3), 175-2(E224-2), 176-2(E223-2)

II 主を記念することの実行

B 杯を飲むことによって

2 神の祝福を受ける【前半】（1コリント10:16前半、ヨハネ6:35前半、啓示録14:10）

パンを食べることは、命を受けることであり、杯を飲むことは、祝福を受けることです。聖書で、パンは命のパンと呼ばれており(ヨハネ6:35前半)、杯は祝福の杯と呼ばれています(1コリント10:16前半)。ですから、パンを食べることは命の供給を受けることを意味し、杯を飲むことは祝福を受けることを意味します。

杯は分け前を示します。それは激怒の分け前か祝福の分け前です。もしわたしたちが神の裁きの下で罪定めされるなら、杯はわたしたちにとって激怒の分け前です(啓14:10)。わたしたちが赦され贖われるなら、杯はわたしたちにとって祝福の分け前です。聖書は、わたしたちは血を飲むと言うのではなく、杯を飲むと言っています。これは、主イエスの贖う血がわたしたちの杯、分け前になることを意味します。

II 記念主的實行

B 藉著喝杯

2 接受神的祝福【前半】（約6:35上、林前10:16上、啓14:10）

吃餅は接受生命；喝杯は接受祝福。在聖經中，餅稱為生命的糧（約6:35上），杯稱為福杯（林前10:16上）。因此，吃餅的意思是接受生命供應，而喝杯的意思是接受祝福。

杯指明「分」—忿怒的分或是祝福的分。我們若在神的審判下被定罪，這杯對我們就是忿怒的分（啓十四10）。我們若蒙赦免並得救贖，杯對我們就是祝福的分。聖經沒有說我們喝血，而是說我們喝杯。這就是說，主耶穌救贖的血成了我們的杯，我們的分。

當我們喝杯時，我們不僅復習新約的救贖，也接受神的祝福。這祝福乃是神自己。亞當的墮落使人失去神，但基督的救贖把神帶回給人。人在墮落裡失去神是一個極大的虧損；現今我們在基督的救贖裡重新得回神，這乃是獨一的祝福。這杯作為分，乃是神自己作我們獨一的祝福。

藉著這個交通，我們可以看見主的桌子所含示的有多深廣。記念主不僅僅是記念祂如何是神，並如何成為人，記念主乃是在一切深遠意義的實際裡擘餅、吃餅並喝杯。

II To remember the Lord

B By Drinking the Cup

2 To Receive God's Blessing [Part 1/2] (John 6:35a, 1 Cor. 10:16a, Rev. 14:10)

To eat the bread is to receive life; to drink the cup is to receive blessing. In the Bible, the bread is called the bread of life (John 6:35a) and the cup is called the cup of blessing (1 Cor. 10:16a). Thus, to eat the bread means to receive the life supply and to drink the cup means to receive the blessing.

The cup indicates a portion—either a portion of wrath or a portion of blessing. If we are condemned under God's judgment, the cup is a portion of wrath to us (Rev. 14:10). If we are forgiven and redeemed, the cup is a portion of blessing to us. The Bible does not say that we drink the blood but that we drink the cup. This means that the redeeming blood of the Lord Jesus becomes our cup, our portion.

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 10:16a

- わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？
- 我們所祝福的福杯，豈不是基督之血的交通麼？
- The cup of blessing which we bless, is it not the fellowship of the blood of Christ?

♪主を賛美する(祝福の杯)：176-1&2(E223-3), 179-3(E220-3), 176-2(E223-2), 183(No English), 184-2 (E213)

♪御父を礼拝する(祝福)：28-1(No English), 29-1(E31-1)

II 主を記念することの実行

B 杯を飲むことによって

2 神の祝福を受ける【後半】

わたしたちは杯を飲む時、新契約の贖いを覚えるだけでなく、神の祝福を受けます。この祝福は神ご自身です。アダムの墮落は人に神を失わせましたが、キリストの贖いは神を人に戻しました。人の墮落の中で神を失ったことは、最大の損失でした。今やキリストの贖いの中で再び神を得たことは、唯一の祝福です。分け前としての杯は、わたしたちにとって唯一の祝福である神ご自身です。

この交わりを通して、主の食卓がいかに多くのことを暗示するのかが見ることができます。主を記念することは、ただ彼がどのように神であったか、どのように人と成られたかを記念することではありません。主を記念することはそれらすべての深い意義の実際の中で、パンをさき、パンを食べ杯を飲むことです。

II 記念主的實行

B 藉著喝杯

2 接受神的祝福【後半】

當我們喝杯時，我們不僅復習新約的救贖，也接受神的祝福。這祝福乃是神自己。亞當的墮落使人失去神，但基督的救贖把神帶回給人。人在墮落裡失去神是一個極大的虧損；現今我們在基督的救贖裡重新得回神，這乃是獨一的祝福。這杯作為分，乃是神自己作我們獨一的祝福。

藉著這個交通，我們可以看見主的桌子所含示的有多深廣。記念主不僅僅是記念祂如何是神，並如何成為人，記念主乃是在一切深遠意義的實際裡擘餅、吃餅並喝杯。

II To remember the Lord

B By Drinking the Cup

2 To Receive God's Blessing [Part 2/2]

When we drink the cup, we not only review the redemption of the new covenant but also receive God's blessing. This blessing is God Himself. Adam's fall caused man to lose God, but Christ's redemption brings God back to man. The losing of God in man's fall was the greatest loss. Now our gaining God back in Christ's redemption is the unique blessing. The cup as a portion is God Himself as the unique blessing to us.

Through this fellowship we can see how much the Lord's table implies. To remember the Lord is not merely to remember how He was God and how He became a man. To remember the Lord is to break the bread, to eat the bread, and to drink the cup in the reality of all their deep significances.

♪ 詩歌(祝福の杯)：176(E223), 177-4(E233-4), 179-3&5(E220-3&5)

II 主を記念することの実行

B 杯を飲むことによって

3 キリストの血の中で交わりを持つ (1コリント10:16前半)

杯を飲むことはまた、わたしたちがキリストの血の中で交わりを持つことを示しています(1コリント10:16前半)。わたしたちは一つの杯から飲むことで、共同で相互にあずかります。食べるものと飲むことはいずれも、一と交わり、伝達を示しています。こういうわけで、食卓には多くのパンではなくただ一つのパンがあるだけであり、多くの杯ではなくただ一つの杯があるだけです。一つパンと一つ杯は、一と交わり、伝達を示します。この伝達、この交わりは、キリストの奥義的なからだの中にあり、またキリストの贖う血の中にあります。わたしたちはみなこの一つの血によって贖われたので、一つの伝達があり、これを通して唯一の祝福を受けるのです。

II 記念主的實行

B 藉著喝杯

3 在基督的血裡有交通 (林前10:16上)

喝杯也指明我們在基督的血裡有交通 (林前十16上)。我們喝同一個杯，就是共同、彼此的有分於這杯。吃餅和喝杯都是指明一和交通（共享）。這就是為什麼在主的桌子前，我們只有一個餅，而不是許多的餅；只有一個杯，而不是許多的杯。一餅和一杯指明一和交通（共享）。這個共享，這個交通，是在基督奧秘的身體裡，也是在基督救贖的血裡。因著我們都被這一個血所救贖，我們就有一個共享，並借此接受這獨一的祝福。

II To remember the Lord

B By Drinking the Cup

3 To Have Fellowship in the Blood of Christ (1 Cor. 10:16a)

Drinking the cup also indicates that we have fellowship in the blood of Christ (1 Cor. 10:16a). We have a joint and mutual participation in the drinking of the one cup. Both eating and drinking indicate oneness and fellowship, communion. This is why we have only one loaf, not many loaves, and only one cup, not many cups, at the table. One loaf and one cup indicate the oneness and the fellowship, the communion. This communion, this fellowship, is in both the mystical Body of Christ and in the redeeming blood of Christ. Because we all are redeemed by this one blood, we have the one communion, and through this we receive the unique blessing.

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 10:16a

- わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？
- 我們所祝福的福杯，豈不是基督之血的交通麼？
- The cup of blessing which we bless, is it not the fellowship of the blood of Christ? The bread which we break, is it not the fellowship of the body of Christ?

♪ 詩歌(血の交わり/一つからだ/一つ交わり)：154、182、185、★日補606((中補611/E1107)、
日補608(中補617/E1106)、日補32(中補/E1108))

II 主を記念することの実行

C 主の死を展覧する (1コリント11:26)

主の食卓で、わたしたちは主の死を記念するのではなく、主の死を告げ知らせ、宣言し、展覧するのです。コリント人への第一の手紙第11章26節は言います「ですから、あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」。ここには主の体を表徴するパンがあり、また主の血を表徴する杯があります。主の食卓で、主の死が展覧されます。なぜなら、杯がパンから分離しているからです。すなわち、血が体から分離しているのです。わたしたちはパンを食べ杯を飲んで、主の死を展覧します。なぜなら、血が体から分離される時は常に、それは死であるからです。わたしたちはパンを食べ杯を飲む時はいつも、主の死を記念するのではなく、全宇宙に対して、特に天上にある支配たちや権威たちに対して、主の死を展覧するのです。

II 記念主的實行

C 陳列主的死 (林前11:26)

在主的桌子上前，我們不是記念主的死，乃是宣告、宣揚、陳列主的死。林前十一章二十六節說，「你們每逢吃這餅，喝這杯，是宣告主的死，直等到祂來。」這裡我們有餅，表征主的身體；我們有杯，表征主的血。在主的桌子上，祂的死被陳列出來，因為杯和餅分開，也就是說，血和身體分開。我們吃餅喝杯，乃是陳列主的死，因為每逢血與身體分開時，就是表示死。每當我們吃餅喝杯時，我們不是記念主的死，而是向全宇宙，特別是向諸天界裡執政的和掌權的，陳列祂的死。

II To remember the Lord

C To Display the Lord's Death (1 Cor. 11:26)

At the Lord's table, we do not remember the Lord's death, but we declare, proclaim, display, the Lord's death. First Corinthians 11:26 says, "For as often as you eat this bread and drink the cup, you declare the Lord's death until He comes." Here we have the bread signifying the Lord's body, and we have the cup signifying the Lord's blood. On the Lord's table, His death is displayed, because the cup is separate from the bread, that is, the blood is separate from the body. We eat the bread and we drink the cup to display the Lord's death, because whenever the blood is separate from the body, that is death. Whenever we eat the bread and drink the cup, we do not remember the Lord's death but we display His death to the whole universe, especially to the principalities and powers in the heavenlies.

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:26

- ですから、あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。
- 你們每逢喫這餅，喝這杯，是宣告主的死，直等到祂來。
- For as often as you eat this bread and drink the cup, you declare the Lord's death until He comes.

♪ 詩歌：173(E224)

II 主を記念することの実行

D わたしたちが主の再臨を願っていることを表明する（1コリント11:26後半、マタイ26:29）

主の食卓で主を記念するのは、わたしたちが主の再臨を願っていることを表明するためでもあります。コリント人への第一の手紙第11章26節後半は、わたしたちは主が来られるまで主の死を展覧すると言います。わたしたちは主の死を展覧する時、主の再来を願っていることを表明します。マタイによる福音書第26章29節で主は言われました、「わたしの父の王国であなたがたと共に新しく飲むその日まで、わたしは今後、ぶどうからできたものを、決して飲むことはしない」。これは天の王国の出現です。主は戻って来た後、そこにおいてわたしたちと共に飲まれるでしょう。わたしたちは主を記念し、彼の死を展覧する時、主が早く戻って来られるようにという願いを表明します。

II 記念主的實行

D 表達我們對主再來的渴望（林前11:26下、太26:29）

我們在主的桌子前記念主，也是表達我們對主再來的渴望。林前十一章二十六節下半說，我們宣告、陳列主的死，直等到祂來。當我們陳列主的死時，乃是表達我們對主第二次來的渴望。在馬太二十六章二十九節主說，「從今以後，我絕不喝這葡萄樹的產品，直到我在我父的國裡，同你們喝新的那日子」。這是諸天之國的實現；當主回來後，祂要與我們在那裡喝。當我們記念主並陳列祂的死時，我們乃是表達我們渴望主早日回來。（二二至二七頁。）

II To remember the Lord

D To Express Our Desire of the Lord's Coming Back (1Cor. 11:26b, Matt. 26:29)

We also remember the Lord at His table to express our desire of His coming back. First Corinthians 11:26b says that we display the Lord's death until He comes. While we display the Lord's death, we express our desire of the Lord's second coming. In Matthew 26:29 the Lord said, "I shall by no means drink of this product of the vine from now on until that day when I drink it new with you in the kingdom of My Father." This is the manifestation of the kingdom of the heavens, in which the Lord will drink with us after His coming back. When we remember the Lord and display His death, we express our desire that the Lord will come back soon.

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:26b

- 主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。
- 是宣告主的死，直等到祂來。
- you declare the Lord's death until He comes.

マタイ | 馬太福音 | Matthew 26:29

- ただし、わたしはあなたがたに言うておく。わたしの父の王国であなたがたと共に新しく飲むその日まで、わたしは今後、ぶどうからできたものを、決して飲むことはしない」。
- 但我告訴你們，從今以後，我絕不喝這葡萄樹的產品，直到我在我父的國裡，同你們喝新的那日子。
- But I say to you, I shall by no means drink of this product of the vine from now on until that day when I drink it new with you in the kingdom of My Father.

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

A パンを食べ、杯を飲んだ後（マタイ26:30）

パンをさき杯を飲んだ後、主はわたしたちを導いて御父を礼拝させます。これは、マタイによる福音書第26章30節に基づいています。その節は、主が弟子たちと晚餐を済ませた後、彼と弟子たちが詩歌を歌ったと言っています。その詩歌は、主が弟子たちと共に御父に歌われました。主の食卓で、主はリードして御父を賛美し、御父を礼拝されました。主の食卓の集会の終わりに、わたしたちは主と共に御父を礼拝する必要があります。わたしたちは彼の兄弟たちとして、長子に続いて御父を礼拝しなければなりません。主は長子としてリードして御父を礼拝され（ヘブル2:12）、わたしたちは彼の多くの兄弟たちとして彼に続きます。（奉仕についての基本的学課、第3課）

マタイによる福音書第26章26節から30節は、わたしたちはパンを食べ杯を飲んだ後、御父を礼拝すべきであることを見せています。26節から29節は、パンがさかれて食べられ、杯が飲まれたことを見せています。次に30節に、御父に対して詩歌を歌うことがあり、御父への礼拝が、パンを食べ杯を飲んだ後になければならないことを見せています。

III 敬拜父—以父為中心

A 在吃餅喝杯之後（太26:30）

〔在吃餅喝杯〕之後，主要帶領我們敬拜父。這是根據馬太二十六章三十節，那裡說主和祂的門徒吃完晚餐後，祂和門徒就唱詩。主和門徒唱詩歌，是向著父唱的。在主桌子前，主領頭贊美父、敬拜父。在擘餅聚會的末了，我們需要同著主敬拜父。我們這些主的弟兄，必須跟隨長子來敬拜父。主這位長子領頭敬拜父，（來二12，）而我們這些祂的眾弟兄也跟隨祂敬拜父。（二七頁。）

馬太二十六章二十六至三十節給我們看見，我們應當在吃餅喝杯之後敬拜父。二十六至二十九節給我們看見擘餅、吃餅和喝杯。然後在三十節就有向父唱詩，這顯示敬拜父必須在吃餅喝杯之後。

A After Eating the Bread and Drinking the Cup (Matt. 26:30)

After all of this, the Lord will lead us to worship the Father. This is based upon Matthew 26:30, which says that after the Lord finished His supper with His disciples, He and the disciples sang a hymn. That hymn was sung by the Lord with His disciples to the Father. In the Lord's table, the Lord takes the lead to praise the Father, to worship the Father. At the end of the Lord's table meeting, we need to worship the Father with the Lord. We must follow the firstborn Son to worship the Father as His brothers. The Lord as the firstborn Son takes the lead to worship the Father (Heb. 2:12), and we as His many brothers follow Him. (Basic Lessons for the Service, Lesson 3)

Matthew 26:26-30 shows that we should worship the Father after eating the bread and drinking the cup. Verses 26-29 show us that the bread was broken and eaten and that the cup was drunk. Then in verse 30 there is the singing of a hymn to the Father, showing that the worship to the Father must be after eating the bread and drinking the cup. (Basic Lessons for the Service, Lesson 5)

マタイによる福音書 | 馬太福音 | Matthew 26:30

- そして彼らは詩歌を歌ってから、オリブ山へ出かけた。
- 他們唱了詩，就出來往橄欖山去。
- And after singing a hymn, they went out to the Mount of Olives.

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

B 賛美することによって

1 神の長子であるキリストは、彼の兄弟たちの間で導く（ヘブル2:12）

わたしたちは賛美することによって御父を礼拝します。これもマタイによる福音書第26章30節に基づいています。これは、詩歌が歌われたことを告げる唯一の節です。それは賛美することを意味します。ギリシャ語原文によれば、彼らは御父に対して賛美をほめ歌った」と言えるでしょう。主の食卓で御父を礼拝するために、わたしたちは彼に対する賛美の詩歌を歌わなければなりません。

神の長子であるキリストは、彼の兄弟たちの間で導いて、賛美の歌を御父に歌われます。ヘブル人への手紙第2章12節は言います、「わたしはあなたの御名をわたしの兄弟たちに言い表し、召会のただ中で、わたしは賛美の歌をあなたに歌います」。ギリシャ語による文字どおりの意味は、「わたしはあなたをほめ歌います」です。マタイによる福音書第26章30節とヘブル人への手紙第2章12節は、主の食卓での御父への礼拝を見せています。どのような集会において、キリストは彼の兄弟たちのただ中で賛美の歌を御父に歌うことができるのでしょうか？マタイによる福音書第26章30節は、その答えを与えています。マタイによる福音書第26章30節は尊い節であり、パンをさき杯から飲んだ後、キリストは導いて弟子たちの間で賛美の歌を御父に歌われたことを見せています。

III 敬拜父—以父為中心

B 藉著賛美

1 基督，神的長子，在祂的眾弟兄中間領頭（來2:12）

我們乃是藉著讚美敬拜父，這也是根據馬太二十六章三十節，這是惟一題到唱詩的經節。唱詩表示讚美。照著原文，我們可以說他們向父「唱著讚美」。我們在主的桌子前敬拜父，必須向祂唱讚美的詩。

基督，神的長子，在祂的眾弟兄中間領頭，向父唱讚美的詩。希伯來二章十二節說，「我要向我的弟兄宣告你的名，在召會中我要歌頌你。」「我要歌頌你」，照原文直譯是：「我要將你唱出來。」馬太二十六章三十節和希伯來二章十二節，給我們看見在主的桌子前對父的敬拜。基督能在何種聚會裡在祂的眾弟兄中間歌頌父？馬太二十六章三十節給我們答案，這是一節寶貴的經節，給我們看見基督領頭在門徒中間歌頌父，乃是在擘餅喝杯之後。

III Worshipping the Father

B By Praising

1 Christ, the Firstborn of God, Taking the Lead among His Brothers (Hebrew 2:12)

We worship the Father by praising. This is also based upon Matthew 26:30. This is a unique verse telling us that a hymn was sung. That means to praise. According to the Greek text, we may say that they "hymned a praise" to the Father. To worship the Father at the Lord's table, we have to sing hymns of praise to Him.

Christ, the Firstborn of God, takes the lead among His brothers to sing hymns of praise to the Father. Hebrews 2:12 says, "I will declare Your name to My brothers; in the midst of the church I will sing hymns of praise to You." The literal meaning according to the Greek is "I will hymn You." Matthew 26:30 and Hebrews 2:12 show us the worship of the Father at the Lord's table. In what kind of meeting can Christ sing hymns of praise to the Father in the midst of His brothers? Matthew 26:30 gives us the answer. Matthew 26:30 is a precious verse showing us that it was after the breaking of the bread and the drinking of the cup that Christ took the lead to sing hymns of praise to the Father among the disciples.

ヘブル人への手紙 | 希伯來書 | Hebrew 2:12

- 「わたしはあなたの御名をわたしの兄弟たちに言い表し、召会のただ中で、わたしは賛美の歌をあなたに歌います」と言われるのです。
- “我要向我的弟兄宣告你的名，在召會中我要歌頌你。”
- Saying, “I will declare Your name to My brothers; in the midst of the church I will sing hymns of praise to You.”

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

B 賛美することによって（マタイ26:30）

2 神の多くの子たちであるわたしたちは、キリストに従って御父を賛美する【後半】

神の多くの子たちであるわたしたちは、キリストに従って御父を賛美します。マタイによる福音書第26章30節で、キリストだけでなく、彼の弟子たちも彼と共に賛美の歌を歌っていました。ですから、彼が導かれ、弟子たちが彼に従いました。今日も同じであるべきです。長子であるキリストが導かれ、多くの子たちであるわたしたちが彼に従って御父を賛美します。

III 敬拜父—以父為中心

B 藉著讚美（太26:30）

2 我們，神的眾子，跟隨基督讚美父【後半】

我們，神的眾子，跟隨基督讚美父。在馬太二十六章三十節，不僅基督唱讚美詩，祂的門徒也與祂同唱。所以祂領頭，門徒就跟隨祂。今天也應當如此。長子基督領頭，我們這許多的兒子就跟隨祂讚美父。

III Worshipping the Father

B By Praising (Matt. 26:30)

2 We, the Many Sons of God, Following Christ in Praising the Father

We, the many sons of God, follow Christ in praising the Father. In Matthew 26:30 it was not only Christ but also His disciples singing a hymn of praise with Him. So He took the lead and the disciples followed Him. Today it should be the same. Christ, the Firstborn, takes the lead, and we, the many sons, follow Him to praise the Father.

マタイによる福音書 | 馬太福音 | Matthew 26:30

- そして彼らは詩歌を歌ってから、オリブ山へ出かけた。
- 他們唱了詩，就出來往橄欖山去。
- And after singing a hymn, they went out to the Mount of Olives.

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

C 御父を賛美する

1 御子を通して (エペソ2:18)

わたしたちが御父に賛美を向けることは、御子を通して、またその霊の中です。わたしたちは主を記念する時、すべての賛美を主に向けます。そして転じて御父を礼拝する時、わたしたちはすべての賛美を御父に向けなければなりません。エペソ人への手紙第2章18節は言います、「それは、わたしたち両者がキリストを通して、一つ霊の中で、父へと近づくことができるためです」。十字架上で死んですべての規定を廃棄し、二つの民から一人の新しい人へと創造する方である御子を通して(15節)、またその霊の中で、わたしたちは御父へと近づきます。

III 敬拜父—以父為中心

C 賛美父

1 藉著子 (弗2:18)

我們向父讚美是藉著子並在那靈裡。當我們記念主時，我們將所有的讚美投向主；然後當我們轉而敬拜父時，我們也必須將我們所有的讚美投向父。以弗所二章十八節說，「因為藉著祂，我們兩下在一位靈裡，得以進到父面前。」我們進到父面前，乃是藉著子，就是那死在十字架上，廢掉了所有的規條，將兩下創造成一個新人的，（15，）並且是在那靈裡。

III To Worship the Father - With the Father as the center

C Addressing Praise to the Father

1 Through the Son (Eph. 2:18)

Our addressing praise to the Father is through the Son and in the Spirit. In our remembrance of the Lord, we address all the praises to the Lord. Then when we turn to worship the Father, we have to address all our praises to Him. Ephesians 2:18 says, "For through Him we both have access in one Spirit unto the Father." Through the Son, as the One who died on the cross to abolish all the ordinances and to create the one new man of two peoples (v. 15), and in the Spirit we have access unto the Father.

エペソ人への手紙 | 以弗所書 | Ephesians 2:18

- それは、わたしたち両者がキリストを通して、一つ霊の中で、御父へと近づくことができるためです。
- 因為藉著祂，我們兩下在一位靈裡，得以進到父面前。
- For through Him we both have access in one Spirit unto the Father.

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

C 御父を賛美する

2 その霊の中で (エペソ2:18、ルカ15:1-32)

ルカによる福音書第15章は、御子が羊飼いとて来て失われた羊を捜されること(1-7節)、その霊が女として家を照らし、ついに失われた銀貨を見いだされること(8-10節)、御父が帰って来た息子を迎え入れられること(11-32節)を啓示しています。これは、贖う御子、聖別する霊、受け入れる御父を伴う神聖な三一の神聖なエコノミーを見せています。御子を通して、その霊の中で、わたしたちは御父へと近づきます。主はルカによる福音書第15章で三つのたとえを語って、罪人に対する三一の神の救う愛を啓示されました。失われた羊、失われた銀貨、失われた息子は、一人の失われた人の三つの面です。ルカによる福音書第15章は、わたしたちは直接、御父に捜し求められ、見いだされ、もたらされることはできないことを見せています。わたしたちはキリストを通して、またその霊の中でのみ、御父へと来ることができるのです。

III 敬拜父—以父為中心

C 賛美父

2 在那靈裡 (弗2:18、路15:1-32)

路加十五章〔也〕啓示子來作牧人，尋找失迷的羊；（1～7；）靈是點亮屋子的婦人，至終找著失落的銀幣；（8～10；）父接納回家的兒子。（11～32。）這顯示神聖三一的神聖經綸，其中有救贖的子、聖別的靈、和接納的父。藉著子並在那靈裡，我們得以進到父面前。主在路加十五章說了三個比喻，揭示三一神向著罪人之拯救的愛。失迷的羊、失落的銀幣、和失喪的兒子，是一個失喪之人的三方面。路加十五章顯示我們不能直接被尋找、被找著、並被帶到父面前；我們進到父面前，只能藉著基督並在那靈裡。

III To Worship the Father - With the Father as the center

C Addressing Praise to the Father

2 In the Spirit (Eph. 2:18, Luke 15:1-32)

Luke 15 reveals that the Son came as the Shepherd to seek after the lost sheep (vv. 1-7), that the Spirit as the woman enlightens the house and eventually finds the lost coin (vv. 8-10), and that the Father receives the returned son (vv. 11-32). This shows the divine economy of the Divine Trinity with the redeeming Son, the sanctifying Spirit, and the receiving Father. Through the Son and in the Spirit, we have access unto the Father. The Lord told three parables in Luke 15 to unveil the saving love of the Triune God toward sinners. The lost sheep, the lost coin, and the lost son are one lost person in three aspects. Luke 15 shows that we cannot be sought for and found and brought to the Father directly. We can come to the Father only through Christ and in the Spirit.

エペソ人への手紙 | 以弗所書 | Ephesians 2:18

- それは、わたしたち両者がキリストを通して、一つ霊の中で、御父へと近づくことができるためです。
- 因為藉著祂，我們兩下在一位靈裡，得以進到父面前。
- For through Him we both have access in one Spirit unto the Father.

III 御父を礼拝する——御父を中心とする

D 詩歌を出す

1 御父の存在にしたがって（ヨハネ17:6、26）

今やわたしたちは、主の食卓での御父を礼拝する区分で、詩歌を出すことを考える必要があります。わたしたちは御父の存在にしたがって、詩歌を出す必要があります。御父の名は、主イエスが来られるまで啓示されませんでした。彼は来て御父の名（ヨハネ17:6、26）、御父のパーソンを啓示されました。ですから、わたしたちは御父のパーソン、御父の存在にしたがって詩歌を出さなければなりません。

2 御父の特質にしたがって

わたしたちはまた御父の特質、例えば、彼の愛、彼の優しさ、彼の栄光にしたがって詩歌を出さなければなりません。詩歌目録の中で「御父を礼拝する」と題された区分には、御父の特質にしたがって分類された多くの詩歌があります。これらの特質は、彼の信実、彼の偉大さ、彼の知恵、彼のあわれみ、彼の愛を含んでいます。

わたしたちは、御子のパーソンと働きにしたがって御子を賛美しますが、御父に関して働きはありません。わたしたちは御父の存在と特質にしたがって父を賛美すべきです。わたしたちはこの二つの分類、御父の存在、すなわち御父が何であるかと、御父の特質にしたがって、詩歌を区別し、識別しなければなりません。（奉仕についての基本的学課、第5課）

III 敬拜父—以父為中心

D 題詩歌

1 照著父的所是（約十七6、26）

我們需要來看，在主的桌子前敬拜父的這一段，如何題詩歌。我們需要照著父的所是來題詩歌。直到主耶穌來時，父的名才被啓示出來。祂來啓示父的名（約十七6、26），就是父的人位。因此，我們必須照著父的人位、父的所是來題詩歌。

2 照著父的屬性

我們也必須照著父的屬性，如祂的愛、祂的恩慈、祂的榮耀來題詩歌。在我們詩歌本目錄中「敬拜父」這一類的詩歌，有些是照著父的屬性分類。這些屬性包括祂的信實、祂的偉大、祂的智慧、祂的憐憫、和祂的愛等。

我們讚美子是照著祂的身位和工作，但對父而言沒有工作。我們應當照著父的所是和屬性讚美父。我們必須照著這兩種分類來區別並分辨詩歌：父的所是（父是什麼），以及父的屬性。（事奉的基本功課，四〇至四三頁。）

III To Worship the Father - With the Father as the center

D Calling Hymns

1 According to the Father's person (John 17:6, 26)

Now we need to consider our calling of hymns in the section of worshipping the Father at the Lord's table. We need to call hymns according to the Father's being. The Father's name was not revealed until the Lord Jesus came. He came to reveal the name of the Father (John 17:6, 26), the person of the Father. Thus, we have to call hymns according to the Father's person, the Father's being.

2 According to the Father's attributes

We also have to call hymns according to the Father's attributes, such as His love, His kindness, and His glory. In the table of contents of our hymnal under the section entitled "Worship of the Father," we have a number of hymns categorized according to the Father's attributes. These attributes include His faithfulness, His greatness, His wisdom, His mercy, and His love.

We praise the Son according to His person and work, but there is no work with regard to the Father. We should praise the Father according to His being and attributes. We have to differentiate and discern the hymns according to these two categories: the Father's being (what the Father is), and the Father's attributes. (Basic Lessons for the Service chapter 5)

IV パンをさく人

A 弟子たち（マタイ26:26）

主はパンさきの集会を設立した時、パンと杯を弟子たちに与えられました。弟子たちは、主の救いを受け入れ、主の命を持ち、主に属しました。もちろん、主とこのような関係を持つ者、主を自分の救いとして知る者だけが、主のパンと主の杯を通して主を記念し、主の死を告げ知らせることができます。主の救いを受け入れない者、主の救いの中で主との関係の中にもたらされない者が、どうして主を記念することができるのでしょうか？主が彼の体を与え、彼の血を流すことによって成し遂げられた贖いを受け入れたことがない者が、どうして主のパンと杯を通して、彼の死を告げ知らせることができるのでしょうか？ですから、救われていない人はパンをさくことができず、またさくべきではありません。

B 信じた人たち（使徒2:44-46）

パンをさく者は、すべて「信じた人たち」であるべきです。信者たちは、信仰を通して主の救いを受け入れ、彼の命にあずかり、彼に属する者です。このような信仰を持つ者だけが、パンをさくことができ、またそうすることが許されています。

IV 擘餅的人

A 門徒（太26:26）

主當日設立擘餅，是將餅和杯遞給門徒。門徒是蒙了主的救恩，有了主的生命，屬於主的人。當然只有這樣和主有關係，認識主是他們個人的救主的人，才能記念主，才能藉著主的餅和主的杯來表明主的死。沒有蒙到主的救恩，沒有在主的救恩中和主發生生命關係的人，怎能記念主？沒有接受主捨身流血之救贖的人，怎能藉著主的餅和主的杯來表明主的死？所以未蒙恩、未得救的人是不能，也是不該擘餅的。

B 信的人（徒2:44-46）

擘餅的人應該是「信的人」。信的人，就是信而蒙了主的救恩，有了主的生命，屬於主的人。必須是這樣信的人，才能，才可以擘餅。

IV THE PERSONS WHO BREAK BREAD

A Disciples (Matthew 26:26)

When the Lord established the breaking of bread, He gave the bread and the cup to His disciples, that is, to those who have believed into Him, have His life, and belong to Him. Of course, only those who have such a relationship with the Lord and who know the Lord as their personal Savior can remember the Lord by eating His bread and drinking His cup and can display the Lord's death by His bread and His cup.

B Those who believed (Acts 2:44-46)

Those who break bread must be those who believed, that is, those who have believed and received the Lord's salvation, who have the Lord's life, and who belong to the Lord. Only such believing persons can and may break bread.

マタイ | 馬太福音 | Matthew 26:26

●彼らが食事をしていた時、イエスはパンを取り、それを祝福してさき、弟子たちに与えて言われた、「取って食べなさい。これはわたしの体である」。

●他們喫的時候，耶穌拿起餅來，祝福了，就擘開，遞給門徒，說，你們拿著喫，這是我的身體。

●And as they were eating, Jesus took bread and blessed it, and He broke it and gave it to the disciples and said, Take, eat; this is My body.

使徒行伝 | 使徒行傳 | Acts 2:44-46

●信じた人たちは…日ごとに、一つ思いで宮に堅く居続け、家から家でパンをさき…

●信的人天天同心合意，堅定持續的在殿裡，並且挨家挨戶擘餅…

●And all those who believed ... day by day, continuing steadfastly with one accord in the temple and breaking bread from house to house ...

V パンをさく時

A 日ごとに（使徒2:46）

使徒行伝の初めに、初期の信者たちは日ごとにパンをさくまでに、ひたすらパンをさくことを持ち続けました（使徒2:46）。その当時、信者たちは主に燃えており、深く主を愛したので、自然に、日ごとにパンをさいて主を記念することを願いました。これは、もしできることなら、パンをさいて主を記念することが多ければ多いほど良いことを告げています。

B 週の初めの日に（使徒20:7）

当初、初期の信者たちは日ごとにパンをさいていましたが、後ほど、それは長期間の実行となったので、週に一度、週の初めの日にパンをさきました（使徒20:7）。週の初めの日は主日、すなわち、主の復活の日です。それはまた週の始まりであり、古い事が過ぎ去ったこと、新しい命が始まったことを象徴します。ですから、この日にパンをさいて主を記念することは、最もふさわしいのです。これは、わたしたちがパンをさいて主の死を告げ知らせても、復活の中で彼を記念しているからです。わたしたちは復活の領域の中でパンをさき、新創造の命に基づいて主を記念します。こうして、古い事が過ぎ去り新しい命が始まったこの日に、主の復活の日に、共に集まって来て主を記念することは、時間的に便利でふさわしいだけでなく、とても意義があるのです。

V 擘餅的時候

A 天天（徒2:46）

在使徒行傳初期的信徒對於擘餅，恆心到天天都有。那時他們向主火熱，愛主深切，當然要天天擘餅記念主（徒2:46）。這是告訴我們，若是可能，擘餅記念主，越頻越多越好。

B 七日的第一日（徒20:7）

…當初的信徒，起先是天天擘餅，以後漸入常規，每周一次，在七日的第一日舉行（徒20:7）。七日的第一日，就是主日，乃是主復活的日子，也是一周的開始，像征舊事已過，新生起頭。所以在這日擘餅記念主，是最適宜的。因為我們擘餅雖然是表明主的死，卻是在復活裡記念主。我們擘餅是在復活的境地裡，憑著新造的生命記念主。所以在這像征舊造已過，新造開始，主復活的日子，來擘餅記念主，不只是時與事合，且是非常有意義的。

V THE TIME FOR THE BREAKING OF BREAD

A Day by day (Acts 2:46)

The early believers continued so steadfastly in the breaking of bread that they did it on a daily basis. At the time, because they were fervent toward the Lord and loved Him deeply, they spontaneously broke bread every day. This tells us that, if possible, the more often we break bread to remember the Lord the better.

B On the first day of the week (Acts 20:7)

The early believers began by breaking bread daily (Acts 2:46). Later on, they gradually acquired the habit of doing it once a week on the first day (Acts 20:7). The first day of the week, which is the Lord's Day, is the day of the Lord's resurrection and the beginning of a new week, signifying that the old things are passed away and a new life has begun. Therefore, it is most appropriate to break bread to remember the Lord on this day. Furthermore, although we display the Lord's death when we break bread, we are actually remembering Him in resurrection.

使徒行伝 | 使徒行傳 | Acts 2:46

- また日ごとに、一つ思いで宮に堅く居続け、家から家でパンをさき、歡喜して純真な心で食物にあずかり、
- 他們天天同心合意，堅定持續的在殿裡，並且挨家挨戶擘餅，存著歡躍單純的心用飯，
- And day by day, continuing steadfastly with one accord in the temple and breaking bread …

使徒行伝 | 使徒行傳 | Acts 20:7

- そして週の初めの日、わたしたちがパンをさくために集まった時…
- 七日的第一日，我們聚集擘餅的時候…
- And on the first day of the week, when we gathered together to break bread…

VI パンをさく場所

A 家から家で (使徒2:46)

使徒行伝の初めに最も初期の信者たちは、多くの信者たちの家でパンをさきました。その当時、多くの人がいたので、彼らが一個所に集まってパンをさくのは時間的にもスペース的にも不便であったでしょう。ですから、彼らはこの実行のために、自然に各家に分かれました。これは、一個所に多くの信者たちがいれば、多くの家に分かれてパンをさくことができることを見せています。

B 同じ場所に集まって (1コリント11:20)

彼らはまた、みな同じ場所に集まって来て主の晩餐を食べました。今日わたしたちはパンをさく時、わたしたちの必要に合う最上のものとして分かれてもいいし、共に集まってもいいのです。

VI 擘餅的地方

A 挨家挨戶 (徒2:46)

在使徒行傳初期的信徒擘餅，是在許多信徒的家中。那時他們人多，若要聚集在一處擘餅，無論在地點上，或在時間上，都有不便，所以自然只好分在多家舉行。所以，這給我們看見，信徒在一個地方，如果眾多，是可以分在多家擘餅的。

B 聚在一處 (林前11:20)

他們也有全體「聚在一處的時候，…吃主的晚餐」。今天我們擘餅，或聚或分，自然可以權宜而行。

VI THE PLACE FOR THE BREAKING OF BREAD

A From house to house (Acts 2:46)

The early believers broke bread from house to house in every home. It is clear that the place for the breaking of bread was their homes.

B Come together in the same place (1 Corinthians 11:20)

According to this word, the early believers also came together in one place to eat the Lord's supper. This must have occurred in a larger place. There is the sweet and intimate flavor of a small meeting when we gather to break bread in the homes. There is also the rich and uplifted atmosphere of a large meeting when we gather together in one place. The believers may break bread in separate homes or in one place, and this should be decided on by the church according to the need and the situation.

使徒行伝 | 使徒行傳 | Acts 2:46

- また日ごとに、一つ思いで宮に堅く居続け、家から家でパンをさき…
- 他們天天同心合意，堅定持續的在殿裡，並且挨家挨戶擘餅…
- And day by day, continuing steadfastly with one accord in the temple and breaking bread from house to house…

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:20

- …あなたがたが同じ場所に集まって…主の晩餐を食べる…
- 你們聚在一處…喫主的晚餐…
- When therefore you come together in the same place…

VII パンをさいた後

A 主が来られるのを待ち望む生活をする(1コリント11:26)

パンをさいて主を記念する者は、主を慕い求め、彼が来られるのを待ち望むべきです。ですから、わたしたちはパンをさいた後、主の出現を慕い求め、主が来られるのを待ち望み、主を待ち望む生活をすべきです。もしわたしたちがただ毎週パンをさいて主を記念するだけで、彼が来られるのを願わず、彼を待ち望む生活をしないのであれば、わたしたちはパンさきの意義にそぐわないのです。

VII 擘餅以後的生活

A 應該過等候主來的生活(哥林多前書11:26)

擘餅記念主的人，應該是想念主，等候主來的人。所以我們在擘餅以後，應該「愛慕主的顯現」，應該等候主來，應該過等候主來的生活。如果我們光按時擘餅記念主，而事後不渴望主來，不過等候主來的生活，就我們和擘餅的意義是不相稱的。

VII AFTER THE BREAKING OF BREAD

A We ought to live a life of waiting for the Lord's coming (1 Cor. 11:26)

Those who break bread to remember the Lord should be those who long for the Lord, wait for His coming, and love His appearing (2 Tim. 4:8). Therefore, after we break bread, we ought to live a life of waiting for the Lord's coming. (Life Lesson #17)

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 11:26

- ですから、あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。
- 你們每逢喫這餅，喝這杯，是宣告主的死，直等到祂來。
- For as often as you eat this bread and drink the cup, you declare the Lord's death until He comes.

VII パンをさいた後

B 偶像へのいけにえを食べない (1コリント10:21)

ここで、わたしたちは主の食卓にあずかった後、悪魔の食卓にあずかることはできず、主の杯を飲んだ後、悪魔の杯を飲むことはできないと言っています。わたしたちはパンをさいた後、偶像にいけにえとされたものを何も食べることはできません。わたしたちはパンをさく時、主と交わるのです。それは、異邦人が偶像を拝む時、悪魔と交わるのと同じです。主の食卓で、わたしたちは主ご自身と、彼であるすべて、彼が持っているすべてを享受したのであれば、どうして戻ってこの世の享受とこの世の祝福を願うことができるでしょうか？ わたしたちは主の食卓で主によって満足したのであれば、どうしてサタンに戻って何かを得ることができるでしょうか？ わたしたちはどうしてサタンの世に戻って、サタンが人に与える享受と祝福を得ることができるでしょうか？ こうして、わたしたちはパンをさいた後、この世とその享受にふけてはならないのです。(聖書真理、第2巻、中国語)

VII 擘餅以後の生活

B 不能吃祭偶像之物 (哥林多前書10:21)

我們吃了主的筵席，就不能吃鬼的筵席；喝了主的杯，就不能喝鬼的杯。…我們擘餅以後，就不能吃祭偶像之物。我們擘餅是與主相交，而外邦人祭偶像是與鬼相交。我們與主相交之後，怎可再有分於與鬼相交之物？所以我們擘了主的餅，就不能再吃祭偶像之物。…〔這也指明，〕我們在主的筵席裡，既享受了主自己和主的一切，怎能再去貪求世界的享受和世界的福分？我們既在主的桌子前，從主得著滿足，怎能再去從撒但那裡得著什麼？怎能再到屬撒但的世界裡，去得著撒但所要給人的享受和福分？所以我們在擘餅以後，不該貪愛世界和其中的享受。(聖經要道卷二，三九〇至三九五頁。)

VII AFTER THE BREAKING OF BREAD

B We cannot partake of the table of demons (1 Corinthians 10:21)

...If we partake of the Lord's table, we cannot partake of the table of demons, and if we drink the Lord's cup, we cannot drink the cup of demons. According to the text preceding this verse, the table of demons and the cup of demons are the idol sacrifices. Thus, after we break bread, we cannot eat the idol sacrifices. (Life Lesson #17)

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 10:21

- あなたがたは、主の杯と悪鬼どもの杯の両方を飲むことはできません。主の食卓と悪鬼どもの食卓の両方にあずかることはできません。
- 你們不能喝主的杯，又喝鬼的杯；不能有分於主的筵席，又有分於鬼的筵席。
- You cannot drink the Lord's cup and the demons' cup; you cannot partake of the Lord's table and of the demons' table.

VII パンをさいた後

C 聖なる、罪のない生活をし、種なしパンの祭りを真に守る者となる (1コリント5:8)

旧約で、イスラエル人は過越の祭りを守った後、直ちに種なしパンの祭りを行ない、彼らの生活からすべてのパン種を取り除きました(申16:1-4)。新約でのパンさきは、旧約での過越の祭りに置き換わります。ですから、パンをさいた後、イスラエル人が行なったように、わたしたちは種なしパンの祭りを守って、わたしたちの生活からすべての邪惡と、わたしたちを腐敗させるすべてのものを取り除くべきです。わたしたちはまた、主の聖なる罪のない命、すなわち純粋と真実である種なしパンによってのみ、罪から解放された聖なる生活をして、種なしパンの祭りを真に守る者となることができます。(生命課程、第17課)

VII 擘餅以後の生活

C 過聖別脫罪的生活，作一個真正守除酵節的人（哥林多前書5:8）

在舊約，以色列人過了逾越節，緊接著就過除酵節，從他們的生活裡，除去每一點的酵。（申十六1～4。）新約的擘餅，乃是頂替舊約的逾越節。所以在擘餅以後，我們也該像以色列人，過除酵節，從我們的生活裡，除去所有的罪惡，和一切能叫我們受敗壞的事物，只憑著主那聖別無罪的生命，就是那純誠真實的無酵餅，過聖別脫罪的生活，作一個真正守除酵節的人。（生命課程卷二，一一五頁。）

VII AFTER THE BREAKING OF BREAD

C Live a holy life free from sin,

be those who truly keep the feast of unleavened bread (1 Cor. 5:8)

...Leaven refers to all evil and all that corrupts us. In the Old Testament, immediately after they kept the Passover, the Israelites observed the feast of unleavened bread, removing all leaven from their living (Deut. 16:1-4). The breaking of bread in the New Testament replaces the Passover in the Old Testament. Thus, after the breaking of bread, we should keep the feast of unleavened bread as the Israelites did, removing from our life all evil and all that corrupts us. We would only live a holy life free from sin by the Lord's holy and sinless life, which is the unleavened bread of sincerity and truth, to be those who truly keep the feast of unleavened bread. (Life Lesson #17)

1コリント | 哥林多前書 | 1 Corinthians 5:8

- ですから、古いパン種をもってではなく、また悪意と邪惡のパン種をもってでもなく、純粋と真実であるパン種のないパンをもって、祭りを守ろうではありませんか。
- 所以我們守這節，不可用舊酵，也不可用惡毒邪惡的酵，只用純誠真實的無酵餅。
- So then let us keep the feast, not with old leaven, neither with the leaven of malice and evil, but with the unleavened bread of sincerity and truth.